

十一日〜十七日 税を知る週間

「この社会、あなたの税がいきている」

税を知る週間は、納税者の皆さんや次代の納税者であるお子さんたちに税を正しく理解してもらうために昭和四十九年から始まりました。

今年も「税を知る週間」にちなみ、銚子税務署管内納税貯蓄組合総連合会では、管内の中学生から作文を募集しました。

光町から応募した作品のうち、三年、大木恵久さんの作品が銅賞になりましたので、その作品をご紹介します。



3年 大木恵久さん

「税金」について思うこと

「ねえ、税金って何？」

ある日、私は母に問いかけた。私の聞き方が悪かったのか、それとも…。とにかく母は、一瞬困ったような、いやそうな顔をして、「働いている人なら、誰でも払わなければいけない、国のためのお金じゃないの…？」と答えた。

大人ならみんなそうだ。税

金」の第一印象は決して良いものではない。「払う」とか「払わされる」とか「とられる」とか…。が、この文句を書いている私自身も、税金の本当の正体は知らなかった。

そこでこの機会に、今まで無関心だった税金というものを考えてみよう、と思う。

道路、学校、町の施設…。これらのものは私達の生活に毎日ついてくるものだ。

じゃり道だった細い道も、きれいに舗装され、足の不自由なお年寄りや、自転車も気持ちよく通っていく。私が小学三年生の頃、木造校舎から、素晴らしい設備の整った三階建ての校舎に変わった小学校。中学の部活では、合宿の時町民会館に泊まった。これらの公共施設は、その費用のほとんどが税金から出されているのである。

次に、税金のもう一つの使われ方として、生活保障がある。私は、体だけは丈夫で病院などにはかかったことはないが、病院の中でも税金が重要な役割りをしている。

十六歳以下の難病者には、育成医療という、助成制度があり、

また、お年寄りには、県や国からの補助が出て薬代は無料になる。これらは全て、税金によってまかなわれ、多くの人に喜ばれている。

また、老年になると、年金が出され、一人暮らしのお年寄りなどは、それだけをたよりに生活している。ある国では老後の生活は完全に保障されるほど、多額の年金があるという。

このように、私達人間は、若い時にいやいや払う税金のために、老年になっても生活することができなのだ。また逆に考えると、自分のために、収入のあるうちに少しずつ払う税金、ということになる。

「税金は高くても」こんな言葉を本で見かけた。私もまだ先のことはわからないが、せめて、税金を払うのは義務なんだ!!と自分に言いよかせ、「また税金か」ではなく、税金という正義の味方に感謝できるように：そんな大人になろう、と思う。

私達、人間のためだけに使われる税金。今、私は改めて税金の重要性を知った。少々大げさだが、私が払ったお金で日本国が成り立

っている、そう考えてもおかしくない。

今、税金を払っている人も、これから払う人も、税金の役割りをもう一度よく考えてみれば税金に対するいやな気持ちも、感謝の気持ちに変わるのではないのでしょうか。

私は税金について…、そう思いました。

税金は社会共通の費用をまかなう会費です。

税を知る週間

11月11日 ~ 17日

期間中、次の行事が行なわれます。

税の無料相談所

日時 十一月十七日・十八日

午前十時三十分〜午後四時

会場

旭市サンモール一階

主催 銚子税務署、東京地方税

理士会銚子支部

中学生・高校生の税に関するポ

スター展

日時 十一月十一日〜十八日

会場 銚子税務署・関東十字屋

主催 銚子店、旭市サンモール

銚子税務署管内税務連絡

協議会



社会共通の費用

「日本は、すばらしい国だ」といわれています。四季の変化に富んだ美しい自然のほかに、治安・経済・生活などの面で優れているからでしょうか。

国や地方公共団体では、私たち国民が豊かで安定した暮らしができるよう、いろいろな活動を行っていますが、このために必要な財源は税金。この社会は、私たちの税金によって支えられているのです。

ところで、最近、脱税に対する国民の監視の目は厳しくなってきました。脱税は「被害者なき犯罪」ともいわれ、特定の被害者こそいないものの、いわば「国民全体が被害者」です。社会共通の費用である大切な「税金」。ルールを守って正しく負担するよう心掛けたいものです。